



第2巻  
第1号

平成24年4月5日

**JASWHS** 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

## 東日本大震災 MSW災害支援ニュース



群馬県高崎市の箕郷梅林

### 目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 現地支援活動報告①②
3. 現地・事務所感想文

## 災害対策本部からのお知らせ

### 事務所活動日が変わります！！

1年間の活動を経て、事務所支援活動の体制について検討した結果、今年度より活動日を以下のように変更することになりました。

月～金曜日（祝日を除く） 10:00～17:00

この日程で協力員を引き続き募集いたします。

半日からのご参加でも構いません。

頻繁に参加できなくても、1～2ヶ月に1回、又は単発のご参加でも結構です。

現地支援活動が続く限り、それを支える事務所の活動も続きます。

皆様のご協力をお願いいたします。

### 現地協力員募集！！

引き続き、現地でも協力員を募集しています。

特に今月は、**4月21日・22日**がソーシャルワーカー不在の状況です。

この2日を挟んで、ご参加可能な方はいらっしゃいませんか？

災害対策本部事務所までお気軽にご連絡ください。

### 現地・事務所職員募集！！

現担当者の任期満了にあたり、下記の職員を募集します。

災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。

または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。

(1) 現地常駐者（短期契約職員） 2名

- ・就業場所：宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間：9～17時
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000円/月 通勤費は実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・4月より勤務開始希望

(2) 災害対策本部事務所担当（パート職員）1名

- ・就業場所：協会事務局内
- ・就業時間：週4日程度 10～17時
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900円～ 通勤費は実費支給
- ・経験不問、医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇
- ・4月より勤務開始希望

**\*業務の都合等により残業や休日出勤となることがあります。**

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送り下さい。面接にて決定させていただきます。

または災害対策本部までお気軽にお問い合わせ下さい。

〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル

TEL：03-5366-1057 担当：笹岡・中川・一原

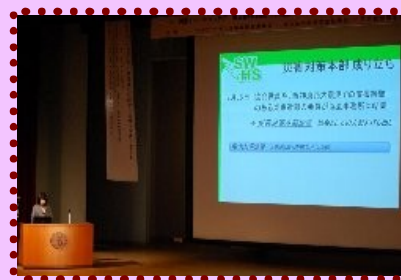
## 次回災害対策本部会議について

急遽4月6日(金)に開催することとなりました。  
新年度を迎え、今後の方針について本部のメンバーで検討します。  
決定事項は後日こちらのニュース上でご報告させていただきます。

## 当協会の災害支援活動について報告しました！！

3月25日(日)文京学院大学にて行われた「3・11 東日本大震災に学び、復興支援を考える集い-災害とソーシャルケア 被災者の目線から支援の方法を考える-」にて、当協会の1年間の災害支援活動について報告しました。

これまで社会福祉系の職能団体、大学、学会がそれぞれに災害支援活動や研究活動、シンポジウムなどを行ってきましたが、災害ソーシャルワークの確立のためには協働して取り組んでいく必要があることから、今回、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会・福祉系大学経営者協議会・日本社会福祉系学会連合が合同で、この集いを開催しました。



始めに大橋謙策氏の基調報告の後、各職能団体からの活動報告を行い、当協会からは、現地支援活動については元現地担当者の佐藤杏氏が、事務所支援活動については事務所担当の一原綾子氏が報告しました。午後は、主催3団体のシンポジストに、被災者の立場でもある東北福祉大学の先生方をコメンテーターに迎えてのシンポジウムが行われました。

いかに災害ソーシャルワークを「見える」化し確立していくか、フロアも交えて熱い議論がかわされました。



## Facebookでも情報をお伝えしています！



現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。  
応援よろしくお願いたします。

-Facebook URL-

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>



## 現地支援活動報告①

吉野 夕香（北海道 北海道医療大学病院）

期間：3月24日～3月25日

石巻市は、祖母の自慢の街です。海鳥が優雅などこまでも見渡す海、温暖な気候を「東北の瀬戸内海だ」とよく例えました。何よりも「泊まりさございん」「いいっちゃ」耳に心地よい音感はいつも、一瞬にして故郷に引き戻すには十分な魅力があります。昨年5月には、被災者の身内という立場で石巻に入り、まだ信号機が動かず、なんとか路肩に寄せて開けた道を走ると、辿り着いた自宅では近所の方が口々に当日の状況を知らせてくれました。当院の歯科医師の支援報告にも、街の混乱が際立つ状況でした。

1年経て今回は支援側として3/24-25北海道チームでの参加となりました。がれきと呼ばれる生活の痕跡が削がれた更地に複雑な思いも抱きつつ、差しのべられた無数の手を感じ心強い思いです。

仮設住宅は、市町村背景や地域で住環境が異なることがわかりました。県警の訪問や救急車の稼働、玄関先にはつるした干し昆布、迎えるプランターの花と震災前の彩りもみえ、訪問には「声かけてくれてありがと、あなた達もがんばって」、生活の場そのものであることを意識させられます。

一方、震災前から複雑な背景を抱える方には、石巻市立病院のスタッフも追跡しており、当協会だけでなく複数で見守っている様子が印象的でした。また、未だ自分の体験には言葉少ない方もおり、元のご近所の顔見知りと仮設に入れたというわずかな情報が、安堵させるものでした。しかし他職種との交流を通して、現地支援側の身分の保証が不安定な現実も知ることになりました。

2日間、主に鴨川少年少女合唱団のコンサートを通して、ポスティングや体験の傾聴、相談について触れることが出来ました。また、再訪メンバーからの前回との支援段階の違いの話は興味深く、繰り返し訪問する有益さを感じています。語り部さんの、人間の開発が自然の呼吸に抗い、50年かけて自然が元に戻ったのかも知れないという言葉には、この被災を繰り返してはいけないという強い覚悟がこもっていました。直後には不安や恐怖の分散と感情吐露、1年経っても今度は客観的に状況整理して、と伝える相手がいることで救いになると語られ、私たちが現地に入り関わった意味の一つを確認できました。

被災地で起こる支援が必要な状況は、病院で受ける相談のように個人個人または、地域との関わりや資源に結びつけることは共通ですが、現状資源は入り乱れていると感じ、これからも継続的な協力が求められるのではと思います。大阪や東京の会員と活動できたことも、刺激になりました。参加機会をいただき感謝しております、一助となるものであれば幸いです。

現地でご指導下さいました武山ゆかり様はじめ手配調整いただいた協会御担当の皆様、ありがとうございます。

## 現地支援活動報告②

木村 聡子（東京都 東京医科大学八王子医療センター）

期間：3月26日～3月27日

2日間と言う短い期間でしたが、家ごと流されて仮設住宅に住んでいる方や、地元の看護師や栄養師という医療従事者のお話をお聞きすることができました。みなさん、笑顔で冗談も交えながら震災当時のことや、現在のことを話してくださいましたが、とてつもなく重たいものを言葉の背後に感じました。沿岸部の被災地域を見せていただき、地元の方のお話を重ねると、とんでもなく大きな災害だったこと、これからもとんでもなく大変であることを感じました。1人が出来ることはほんの少しですが、たくさんの方が少しいことをやっていくしかないな、と実感した2日間でした。

あちこちの仮設住宅への移動のための運転と、おいしいご飯屋さんの開拓（！）でしかお役に立てませんでした。自分がこれから何をできるか考えさせられる機会でした。

行って自分が本当に役に立つのか不安を持っての現地入りでしたが、まずは行かないと分からない現実を肌身で感じるために、一人でも多くの方が行って、それぞれで何が出来るか考えることが大事かと思いました。

## 現地感想文

3月26日（月）

風の強い1日、夜中に車を走らせて、東京八王子から、木村聡子さんが朝来られました。

祖父母の家は、福島原発から4キロ地点！3月3日に一時帰宅に同行された写真を見せていただきました。窓ガラスが割れ、雨漏りもして家も家具も、蔵書も、着物も……。庭には牛や動物の足跡があちこちに。お墓は、無残に倒れて……。今は内陸の寒い地域で、することもなく過ごしておられるとか。帰宅終了時の検査では21シーベルトの被ばく。大丈夫、と言いつつも胸の内は……。東北人は思いを外に出さないから、と木村さんは話していました。福島の方が、全国に沢山転居されています。東京でも集いを定期的に開催中とか。声を掛け合って、誘い合ってお手伝いもしたいと思います。

3月27日（火）

良い天気で、少し強めの冷たい風が吹く毎日です。水の温んできた田んぼ道の中の仮設でポスティング。陽射しのあるうちはうららかでいい気持ちです！でも、夕方はさすが寒くなりますし、連日花粉も飛んでいます！毎日新しい方が来て、ご案内や説明でガイド役も身に付きました。

3月30日（金）

先日の岩手県沖地震、石巻は震度4でしたが、宿舎ではかなり長く強い揺れでした。ちょうど、近くの施設に行っていたSWが、現地の方々の様子にショックを受けたとの事です。特に子どもたちが、「津波！くるよ！」とおびえて、親も子どもたちを集め、早々に出て家に…。彼女はそう大きな揺れを感じなかったのに、と驚いていました。この宿舎も、木造で1M以上浸水したとのこと、土台も問題ありで揺れたのかもしれないが……。いずれにせよ、子どもたち、住民の不安や心の傷は、大きなものがあることを再認識した出来事でした。

4月1日（日）

新しい年度に向けた動きが、行政にも、地域にも、ボランティアにもあります。当協会も、状況に合わせた方針や動きを展開していく必要がありますね。昨日今日と、じっくり考えているところです。

医療・介護と改訂の嵐に、たぶん現場は多忙を極めていると思います。今年も、さくらを心穏やかに愛でるゆとりはなさそうですね。一段落する4月後半に、どうぞ石巻においでください。北国の春はきっと美しいと思います。

## 事務所感想文

3月28日（水）松永（初台リハビリテーション病院）

久しぶりに1人で活動に入っても安心してこなせるような環境が整っていることに、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。一原さん、ありがとうございます。

3月29日（木）長谷川（長岡病院）

半年振りの活動です。やはりここへ来ないと知ることができない現地の様子を耳にし、思いを新たにすることができました。また年度が替わり、人も体制も変わるとの事。取り分け、発災当初から今までこの災害対策本部を支え続けた初台リハ病院の皆様には本当に頭の下がる思いです。これまでの皆様の思いを繋いでいけるようできる限り活動を続けたいと思います。

3月31日（土）笹川（初台リハビリテーション病院）

久しぶりの事務所ボランティアでした。色々なものが整備されており、わからないことはマニュアルに戻って1つ1つ確認していくことができました。一原さん、長谷川さん、わかりやすい申し送りをいただきありがとうございます。